

会 報

1996年度

1. 春季大会記事

1996年度春季大会は、6月23日(日)に北海学園大学教養部・大会議室において開催され、以下の日程により、研究発表、総会、大会記念講演が行われた(参加者46名)。

●研究発表(午前の部)

土井 時久(北海道大学農学部):ネパール・カトマンズ盆地農業の変化

水見山幸夫(北海道教育大学旭川校):1930年代以降の中国東北部の土地利用変化概況

●研究発表(午後の部)

佐々木 巽(北海道教育大学釧路校):アラスカ州ハーディング湖における湖水移動

青木かおり(北海道大学大学院地球環境科学研究科・院):東北日本沖の北西太平洋深海底に分布する火山灰の同定

今号に発表要旨を掲載している。

●総会

1995年度事業報告、決算報告が承認された。1996年度事業計画とこれに基づいて1996年度予算案が承認された。事業計画の中で会誌「北海道地理」の誌名変更の是非について諮られ、総会では結論が出ず、広く会員のアンケートなど調査活動を行い、1997年度総会に結論を提出することが了承された。

1995年度決算

(収入)	
繰越金	229,593
会費収入	546,700
雑収入	116,635
計	892,928
(雑収入内訳:広告料 110,000 会誌売却 2,000 預金利子 4,435 寄付金 200)	

(支出)	
会誌 No.70印刷費	440,000
事務費	6,953
通信費	48,830
謝礼	12,000
大会補助	20,000
会議費	1,702
予備費	12,949
計	542,434

次年度繰越金 350,494

1996年度予算案

(収入)	
繰越金	350,494
会費収入	493,000
雑収入	87,000
計	930,494
(雑収入見込み:広告料 80,000 会誌売却 2,000 預金利子 5,000)	

(支出)	
会誌 No.71印刷費	450,000
著者別刷補助	80,000
事務費	50,000
通信費	75,000
謝礼	60,000
大会補助	20,000
会議費	7,000
予備費	248,494
計	930,494

特別予算分(北海学園大学からの春季大会補助)

(収入)	
春季大会補助	80,000
(支出)	
封筒等印刷	50,000
宛名ラベル用紙	12,792
記念講演題目書筆代	1,648
会場運営費	15,560
(急須, お茶, コーヒー, 紅茶, 砂糖, クリープ, 紙コップ, 録音テープ, 乾電池等)	
計	80,000

●大会記念講演

演者:小笠原 正明 先生(北海道大学高等教育総合センター・教授)

演題:「出土遺物の化学分析による先史時代の交易ルートの解明」

小笠原先生は、「実験考古学」の新しい考古学の専門家であられ、従来の考古学の資料に化学的分析を加え、従来の出土遺物の形態的分析からは知り得なかった新しい情報をもとに先史時代の歴史に光を当てられている。

今回の講演では、まず、弥生時代、縄文時代、あるいはもっと古い旧石器時代末(12000年前ころ)における交易(物資のやりとり)を探る手がかりとして、考古遺物の黒曜石・アスファルト・ガラス玉の化学成分を分析することにより、従来の文様学的・形態的手法では窺い得ない原料産出地域を特定し、これらを使用した遺物の分布との関係から推定する、という新しい方法論が示された。

青森県五所川原の縄文時代遺物として出て来る黒曜石の石器は、津軽海峡を越えて道東の白滝から原石が運ばれたことが分かり、北海道と青森県の交易は縄文時代に普通に行われていたことが推定される。また、旧石器時代の終り(12000前ころ)の黒曜石細石刃(マイクロブレード)にはミネラル成分(ナトリウム、カリウム、カルシウム、けい素、鉄など)を多く含む有機物がよく付着しており、これは柄に使用した骨片の成分が付着したというより、作業仮設として強力な接着剤であるニカワ(軟骨を煮詰めたもの)の可能性が高く、こうなるとこの道具は現在の剃刀に近い性能を持っていたことになり、これまでの想像を越えた高度の生活技術も予想される。

縄文時代の土器には黒いタールのようなもので接着したものがたまに見つかるが、南茅部町でこの接着剤を貯めた土器が発見され、これを分析すると天然アスファルトであることが判明し、この原産地を石炭液化油分析の比較で特定すると天然アスファルトの遺物が産出する秋田県昭和町あるいは新潟県大塚上道、村尻、柏崎あたりの遺跡が該当し、これらの地域との交流が推定される。

また、北海道では弥生時代から徳川時代までに作られた古代ガラス玉が出土し、すべて道外から持ち込まれたものである。これらも形、色、風化度などで外見からの比較に加えてガラスの科学成分を分析・比較することで産地がかなり特定できる。トノマ遺跡(4世紀)の玉はカリガラス、北大遺跡(6-7世紀)の玉は混入物の多いアルカリ石灰ガラス、目梨泊遺跡(8世紀)の玉は典型的なアルカリ石灰ガラスで、大川遺跡(7世紀)の玉には鉛ガラスも含まれている。これらは本州の各中心出土遺跡との交流を示しているが、目梨泊の典型的なアルカリ石灰ガラスは本州では100年先行しているので、100年遅れて入ったとも考えられるが、遺跡の性格から沿海州・サハリンを経由した北方ルートも考えられる。

以上のように、ご講演では考古学に新しい科学(化学)的方法を導入され、従来では未知の考古学の領域に踏み込む興味深い内容であった。

2. 秋季大会記事

1996年度秋季大会は、9月21日(土)~23日(月)に東北地理学会との共催により北海道教育大学函館校にて開催され、21日に研究発表、22日・23日に一泊2日の巡検が行

われた。

研究発表(本会会員についてのみ。今号に発表要旨を掲載)

第1会場

小松原 尚(北海道学北見大):北海道「主要観光地」の類型化

奥平 理(函館工業高専):函館市における旅館・ホテルの立地と近年の変容

土井 時久(北海道大農学部):ネパールにおける農業開発援助と農業の現状

初沢 敏生(福島大教育学部):東京ファッションデザイン業の生産構造

氷見山幸夫(北海道教育大旭川校):2020年代のわが国の土地利用概況の予測

相原 正義(北海道教育大函館校):流況調整河川の水論議

菊地 達夫(札幌創成高):石狩湾振興地域における地域開発の変遷について -明治期から昭和初期までを中心として-

酒井多加志(北海道教育大釧路校):北海道東部に於ける港湾および港湾背後圏の特性について

山下 克彦(北海道教育大札幌校)産炭地域振興計画の地域特性と問題点 -北海道空知地区の旧産炭地を例として-

第2会場

寺田 稔(北海道学大教養部):北海道における診療費の新町村別分布からみた地域特性

深見 亘(北海道教育大・院(函館)):地理教育におけるインターネットの利用

米地 文夫(岩手大教育学部):志賀重昂の火口湖景観論 -北海道の火口湖や十和田湖を例に-

武田 泉(北海道教育大岩見沢校):大雪山国立公園における自然環境の保全・管理の適正化(第6報)-指定60周年記念を迎えた大雪山国立公園をめぐる今日の社会情勢-

鈴木 正章(道都大):後志利別川低地の「沖積層」

巡検

テーマ:「道南の歴史的風土」

コース:

9月22日

北海道教育大函館校→大野町(活断層)→上ノ国町(縄文遺跡)→江差町(町並み、ニシン御殿、開陽丸記念館)→熊石町(宿泊)

9月23日

熊石町→松前町(城址公園)→上磯町(トラピスト修道院)→函館駅着(解散)

案内者:上野広幸,奥平 理,佐々木正明,貞方 昇,

渡辺英郎

巡検内容は今号に掲載。

3. その他

● 会員消息 (会誌70号掲載以降, 順不同)

入会:

青木かおり (北海道大学大学院地球環境科学研究科(院) 自宅住所: 〒060札幌市北区北18条西6丁目20アナミ18 310号室), 石垣友博 (上越教育大学大学院教育学 研究科(院) 自宅住所: 〒943上越市東本町4-2-17 白川方), 伊藤啓之 (北海道教育大学旭川校(院) 自宅住所: 〒070旭川市旭町1条8丁目2633バンブー201号室), 大谷武史 (北海道教育大学札幌校(院) 自宅住所: 〒062札幌市豊平区平岸1条1丁目), 奥野泰崇 (北海道教育大学札幌校(院) 自宅住所: 〒002札幌市北区あいの里5条3丁目1 紫藻寮), 国谷由一 (北海道教育大学函館校(院) 自宅住所: 〒030函館市白鳥町11-13 コーポ白鳥2FA号), 小石秀一 (北海道教育大学函館校(院) 自宅住所: 〒042函館市銭亀町297-3), 肖平 (Xiao Ping) (日本学術振興会外国人特別研究員, 在北海道教育大学旭川校 自宅住所: 〒070旭川市北門町9丁目 ホワイトハイツ 203号室), 成瀬剛慈 (厚岸町立尾幌小学校 自宅住所: 〒088-08厚岸郡厚岸町大字苫多村字尾幌), 深見 亘 (北海道教育大学函館校(院) 自宅住所: 〒041函館市山の手3-59-17), Andre Sorensen (ロンドン大学 L.S.E. 博士課程, 東京大学(研) 自宅住所: 〒004札幌市厚別区厚別東1条1丁目1-27 ロイヤル・ヴィーゼ新札幌601号), 松本穂高 (北海道大学院地球環境科学研究科(院) 自宅住所: 〒001札幌市北区北27条西10丁目5-13 幸和アパート11号)

会員異動:

門村 浩 (東京立大学理学部→立正大学文学部), 小杉健三 (山口大学教育学部退職), 進藤賢一 (札幌大学経済学部→札幌大学文化学部), 太田 真 (日高教育局→北海道立北広島高校 自宅住所: 〒006札幌市手稲区前田1条9丁目3-27), 佐々木三千男 (北海道立北松山高校→北海道立南茅部高校 自宅住所: 〒041-16茅部郡南茅部 町字川汲1533), 浜本武司 (北海道立羽幌高校→函館工業高専 自宅住所: 〒042函館市湯川町2丁目40-101-103), 宮田日出夫 (北海道立篠路高校→北海道立教育研究所), 三好 勲 (北海道立紋別北高校→北海道立札幌稲雲高校 勤務先住所: 〒006札幌市手稲区手稲本町6条4丁目1-1), 木戸口道彰 (北海道立教育研究所→北海道立旭川東高校 勤務先住所: 〒070旭川市6条通11丁目左)

退会:

設楽 寛 (富士大学退職), 信岡 貢 (平岸高台小退職), 広瀬隆人 (国立教育会館社会教育研修所), 小山弘昭 (札幌明清高校退職), 小野健一 (札幌清田高校)

● 訃報

本会会員, 田沼 穰先生 (帯広大谷高校) は, 1996年5月23日, 膵臓癌のため逝去された。ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

本会員, 山田豊治先生は, 1997年6月3日, 肺のご病気のため逝去された。先生は根室高校ご在職中より「北方地域研究会」を主宰して道東の地域研究に尽力され, 国後・択捉両島の地名研究や占領前の島民生活の発掘にも力を注がれた。

ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

● 学会よりのおもな会誌配布先 (交換も含む)

日本地理学会, 人文地理学会, 東北地理学会, 福島地理学会, 北海道立文書館, 北海道立図書館北方資料室, 北海道大学図書館北方資料室, 北海道教育大学本部図書館, 札幌大学図書館, 北海道開拓記念館資料室, 北海道地下資源調査所, 古今書院編集部, 大明堂編集部, シカゴ大学極東文化研究所資料室, 東京都立大学図書館, 国立国会図書館, 地理教育研究会 (筑波大学附属駒場中等高等学校内)

◎ 学会事務局からのお願い

● 会費納入のお願い

1997年ないしこれ以前の年度について会費未納の会員には, 円滑な学会運営のため納入につき特段のご協力をお願い申し上げます。納入額のある方は, 1997年度春季大会会告通知に同封してお知らせしております。なお, 本号と行き違いですすでに納入済みの際はご容赦ください。

● 所属先, 自宅住所の変更

変更になった会員には, それぞれの住所, 電話番号を書き添えの上, 学会事務局までご連絡ください。